

新型コロナウイルスへの認知・対策行動とメディア利用

○石井健一 (Kenichi Ishii)

Keywords : 新型コロナウイルス、対策行動、メディア利用、リスク認知

1 目的

2019年11月に中国武漢で最初に症例が報告された新型コロナウイルスは、日本では2020年1月に最初の感染者が確認され、現在感染者は8000人を超えている。2月27日には首相から大規模なイベントや集会の自粛とともに各地で学校の休校の要請をし、4月7日には東京など7府県に緊急事態宣言を発令し、社会的な影響が広がっている。国などの政策的な対策だけでなく、対策行動を個人が実行するということが、感染の拡大を防ぐという意味で重要になっている。しかし、日本では2009年の新型インフルエンザの流行における一般人の対応行動の研究例はあるが(中谷内2009、及川・及川2010)、今回の新型コロナウイルスは、軽症者が多く、高齢者に特に危険とされるなど、ウイルスがもたらすリスクは新型インフルエンザとは異なっているようである。このような状況において、人々の新型コロナウイルスへの対策行動の実態とメディア利用行動との関連を探るため、報告者は2月にオンラインで800人を対象にアンケート調査を実施し(石井2020)、さらに4月にはパネル調査として第二回目の調査を実施した。本報告は、その記述分析の結果を中心として報告を行うものである。

2 方法

株式会社アイブリッジのアンケートシステム freeasy を利用して、2020年2月22日にオンラインモニター800人に回答を求めた。さらに同一の回答者に4月11-12日に2回目の調査への回答を求めた。対象は18歳以上の男女とした。第一回の調査では、年齢層が偏らないように、20代、30代、40代、50代、60代、70歳以上の男女同数各64人とし、10代(18-19歳)は男女各16人に割り当てた(最終回答者数は男女各400人の合計800人)。回答者の属性についてみると、平均年齢48.4歳(標準偏差17.5)、既婚者58.4%、子供ありが51.4%であった。また、最も多い職業カテゴリーは「会社員(正社員)」28.5%、「専業主婦」16.8%などとなっている。第二回目の調査においては、4月11日の回答者が560人(89.5%)、12日の回答者が66人(10.5%)であり、回答者の属性についてみると、男性が50.8%、平均年齢50.6歳(標準偏差16.9)となっている。

3 結果

新型コロナウイルスへの対策行動については年齢差が大きく、年齢が高い人ほど実行比率が高いという傾向が見られる。また、情報収集と外出を控える行動の間には統計的に有意な関係もみられた。ネットなど個別のメディア利用との関係については、今後詳細な分析を行う予定である。

【主要参考文献】

- 石井健一 (2020) 新型コロナウイルスへの人々の対策行動—アンケート調査結果から、
http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~k_ishii/SARSCoV2.pdf
- 中谷内一也(2009) リスク論は個人の対策行動を説明できるか—新型インフルエンザ拡大時のマスク着用理由、日本社会心理学会大会口頭発表 S28-04, pp. 340-341.
- 及川晴・及川昌典(2010) 危機的状況での認知、感情、行動の変化—新型インフルエンザへの対応、心理学研究, 81号 420-425.